

不破氏は次のように答えました。

不破 どうしても原発は燃やせば「死の灰」が出る。これは、100万\*<sup>2</sup>（の原発）だったら1年間に広島型原爆1000発分出るわけですね。

それをどう処理するかなんですが、アメリカは危ないから再処理はしないと決めちゃったんですよ。なぜ危ないかというと、再処理というのは「死の灰」の放射能を除去するわけではないんです。核燃料の中から燃料としてもういっぺん使える部分と放射能の部分とを切り分けるだけなんです。使える部分はプルトニウムになる。これは全部核爆弾の原材となる。だからプルトニウムにしちゃってこれがテロリストに使われたら大変だということになるでしょ。だから、これは危ないからやめるといふんですね。使用済み核燃料のままで置くと。置いてどうするかというと、10年ぐらい冷やした上で地下に埋めるということなんです。ところが、アメリカの大きなところでもある砂漠の地帯を設定しているんですけども、住民が反対する。いまだに決められないんですよ。だから置きっぱなしなんです。日本は再処理するといっている。そうすると、プルトニウムの問題がもう一方あると同時に、残った廃棄物に放射能が集中するわけですね。そのものすごい高濃度の放射性物質を、再処理工場とかしてガラスで固めるということですよ。ガラス固化体ということですが、それはどんなものになるかということ、人間が触れるほど近づいただけで20秒で放射能で死ぬといふんです。

二木 すごい高濃度ですね。

不破 そういうものができるんですね。では、それをどう始末するかという、いまの始末の方法ですと、だいたい30年から50年貯蔵して寝かしておく。いま青森県の六ヶ所村ではそれが一千何百本寝ていますよ。その後、どう処理するかというと、300\*<sup>2</sup>の地下深く掘って埋めておくといふんです。この放射能の半減期は、いろんな物質によって違うんですが、ものすごく強いものが入っていますから、だんだん減って行って、だいたい自然に生まれるウランがもつ放射能ぐらいまでに減るのには数千万年かかるといふんです。ごく軽い放射能が出るぐらいのところまでいくのにも10万年、20万年かかるといふんですよ。

フィンランドやスウェーデンがそれをいま地下に埋める仕事を始めているんですが、何が問題になっているかというと、10万年後の人間にいまの言葉が伝わるだろうか。そうすると、300\*<sup>2</sup>の地下に埋めて10万年後、20万年後に新しい人類ができたりして、ちょうどわれわれが昔の言葉を解読できないように、ここに危ないものがあるということはどうやって説明したらいいかと、そこまで議論しているんですね。

二木 最近日本でも放映されていますが、「10万年後の安全」というのを私もみたんです。そら恐ろしくなった。

不破 10万年後、100万年後の人類に対して脅威を与えるものが一体いまの人間に扱う責任があるかどうかと問われるんですね。

## ここから何を教訓としてくみとるか

### 原発撤退の決断と本当の安全優先の体制

最後に、今回の福島原発事故から何を教訓としてくみとるかについて問われ、不破氏は次のように答えました。

不破 私は、問題が三つあると思うんです。

一つは、核エネルギーという巨大な破壊力をもったエネルギーを人間は発見したが、これを使いこなす技術をまだもっていないということです。だから、私たちは「未完成の技術」だといっているわけです。未完成なのに戦争のために無理やり使わせてしまった状態があり、ここに根本があると。もう一つは、しかも日本が地震列島だということです。いま地震の科学が進んでくると、昔はどこが危ないといっていたけれども、日本列島のどこにも地震や津波の脅威のないところはないというのが結論なんです。これだけ集中的に原発を使うことの危険性は明瞭だと。それから、「安全神話」で安全体制がまったくずぶずぶになっている点で、原発をやっている国の中で日本がずば抜けているということです。アメリカだってフランスだって、危ないことは承知でそれなりにやるんですね。日本ぐらいそれを手抜きでやっている国はない。

この三つを考えますと、いまこれだけの経験をした日本が、原発といたい共存できるかどうかということについて国民的な討論で答えを出すべきときだと。私たちは、それこそ原発から抜け出す日程を決めて、原発のない新しいエネルギー体制に切り替える決断を戦略的に進めるべきだと思っています。それから、これを決断しても、安全体制というのは必要なんですよ。一つの原発をなくすのにも、原発から核燃料を抜かなければならないでしょ。抜いた後もそこには放射能がうんと残っている。それを取り除きながら廃炉にしなければいけない。この全過程がいまみたいな体制ではできないんです。ほんとに安全優先の体制をつくって、その原発をなくしていく過程をきっちり管理する。こういうことが、これだけの事態をひきおこした日本の、日本の国民の将来に対する責任であると同時に、世界に対する責任でもあると思います。

ヨーロッパの国々が、あれだけ福島原発事故から教訓をくみとって決断をしているのに、そのひきおこした日本がまだ事故も解決できないでいるのに、(運転停止中の原発について) そろそろ再開歓迎というのはほんとに考えられない。

二木 ほんとにわれわれは「安全神話」から抜け出して、さあどうするかという道は二つしかないと思うんですよ。前に行くか、後ろにさがるかということなんです。そういう意味では大きな契機になるだろうし、不破さんのこういう質問も積み重ねの中で今回、いろんな議論の問題点につながっています。

政治革新の道しるべ、  
真実つたえ希望はこぼ

